

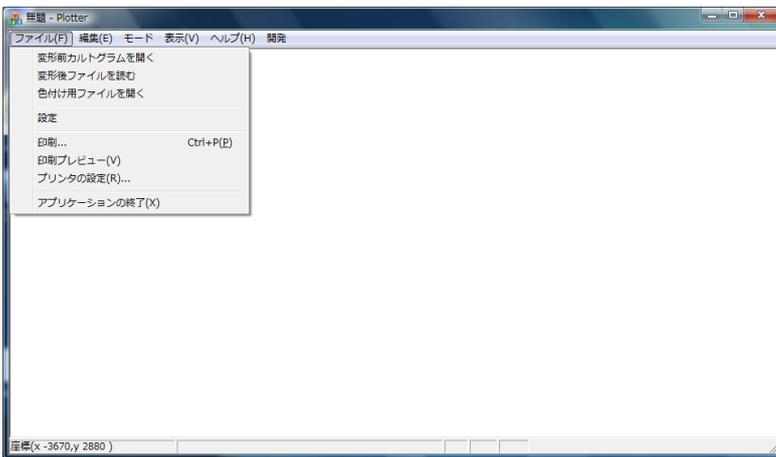
# Plotter の使い方

## 【要点】各モードのキー割り当て

	座標モード	ベクトルモード	閲覧モード
TAB	—	マウスから最も近い多角形にフォーカス	—
右クリック	①その場所に新しい点を作る ②SHIFT を押しながら、最も近い点を削除する	①SHIFT を押しながら、フォーカスのある多角形から最後の一边を削除する ②CTRL を押しながら、新しい多角形を開始する ③SHIFT+CTRL を押しながら、フォーカスのある多角形をまるごと削除	その場所が画面の中心になるように移動する
左クリック	(ドラッグで)最も近い点を移動する	CTRL を押しながら、同じ ID のまま、すべての辺を削除	—

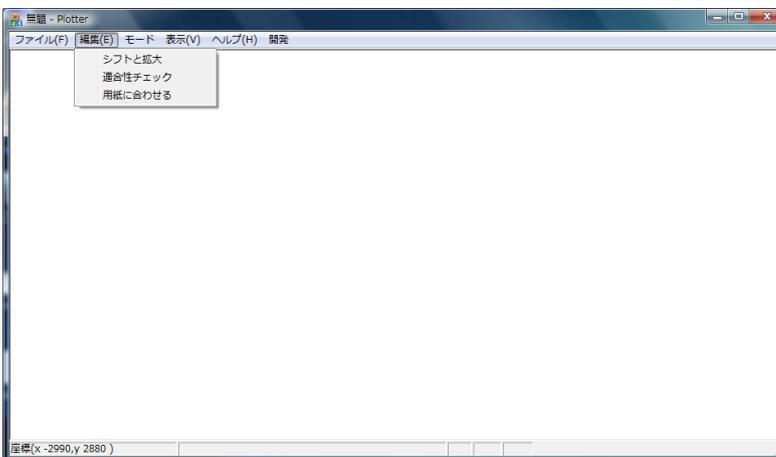
印刷モード=色データに基づいて着色、ダミーポリゴンを表示しない

## 1. ファイル(F)



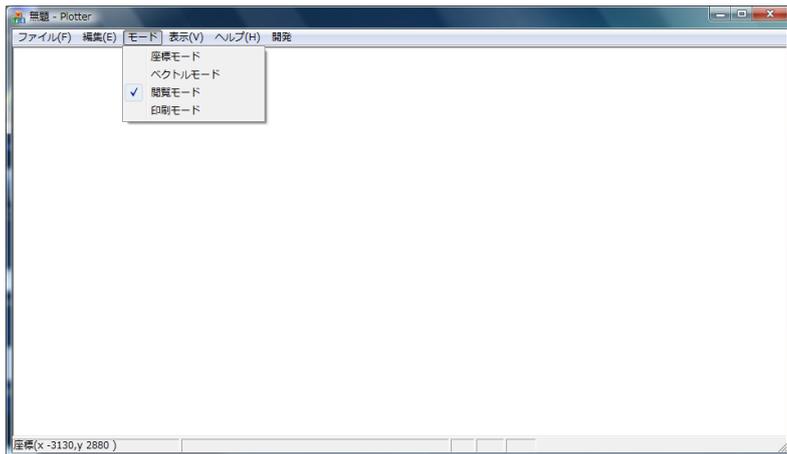
- ・「変形前カルトグラムを開く」「変形後カルトグラムを開く」は、座標・ポリゴン・データの3ファイルが入ったフォルダを指定する。
- ・「色付け用ファイルを開く」は、色付け用ファイルを読み込む。
- ・「設定」は後述。

## 2. 編集(E)



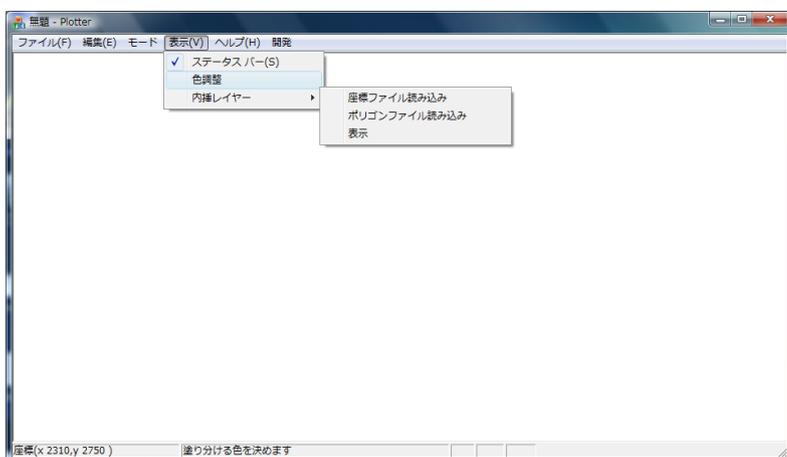
- ・「シフトと拡大」は、地図データ全体の移動・拡大（縮小）
- ・「用紙に合わせる」は、地図全体を用紙に合わせて移動+拡大し、プレビューする。プリンタを変更した場合、一度プレビューしてから実行する必要がある。
- ・「ID 変更」は、(ポリゴンモードで) フォーカス中のポリゴンの ID を変更する。
- ・「連続削除」は、範囲内の ID のポリゴンを一括削除する。

### 3. モード



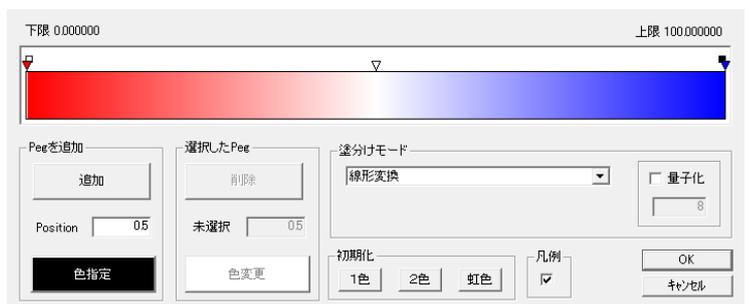
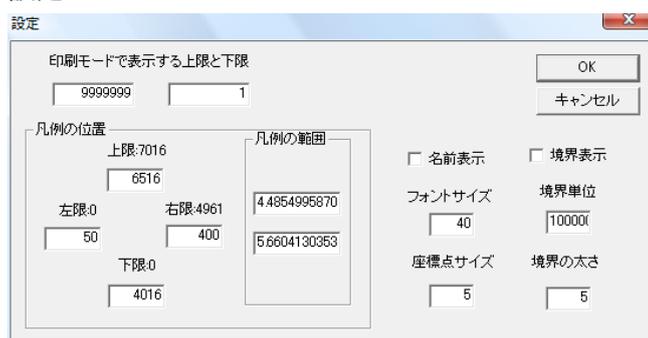
要点の通り。

### 4. 表示 (V)



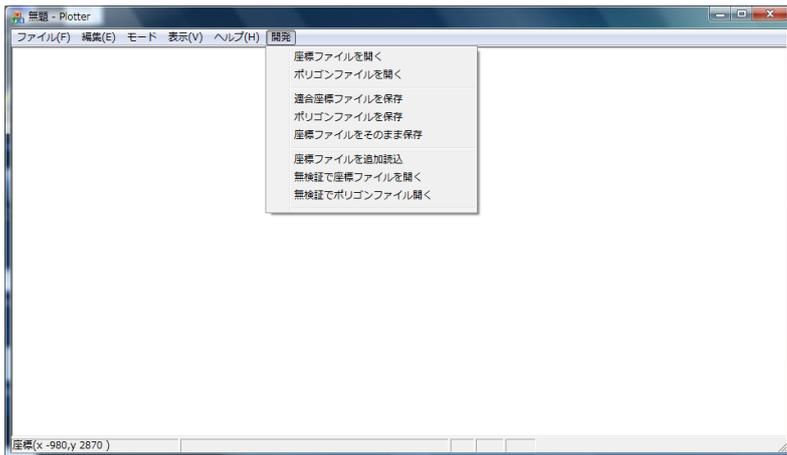
- ・「色調整」は、色付けデータの色の付け方（グラデーション）を指定する。
- ・凡例は色の説明を表示する。（粗いので、別のソフトで再編集が必要）

## 設定



- ・「凡例の範囲」は、初期値は色データの範囲になる。切りのいい数に変更する必要がある。
- ・「印刷モードの上下限」は、ダミーポリゴンの ID を範囲外に指定することで利用する。
- ・「名前表示」は、色付け用ファイルの 3 コラム目にあるテキストデータをポリゴンの重心に表示する。
- ・「座標点サイズ」は、座標モードとポリゴンモードで、表示する座標点の大きさ。座標点は、未使用 = ×、一つのポリゴンに所属 = ○、2つのポリゴンに所属 = ●、3つのポリゴンに所属 = ■、4つ以上の所属 = □になる。
- ・「境界表示」は、県州などを念頭に、ID に桁単位の構造がある場合、境界単位の異なるポリゴンの境界（辺）を、別に表示する。（重ね表示している）

## 5. 開発



・「ファイルの読み込み」「保存」などは、地図データ作成中に、ファイルを別々に操作するためのコマンド。データの ID 重複チェックなどをしない「無検証読み込み」がある。

・「ポリゴンの保存」では、.csv\_area の拡張子で各ポリゴンの面積を出力する。

・「適合座標ファイルの保存」を実行すると、使用されていない座標は消去される。

・「内挿レイヤー」は、地図データ作成中に同種のファイルを参照するために使用するもの。

同じ座標系で表示されるだけで、本体データに全く影響しない。「表示」のチェックを外すと表示されない。

・「投影」は、データに PROJ4 の投影法変換を適用する。(用途未定)

## 6. ヘルプ(H)

